

コードウインドウでは、[Tab] キーを押すと1段階のインデント（半角スペース4個）が挿入される。インデントした行で入力して改行すると、次の行も自動的に同じ位置までインデントされる。

選択範囲を表す Range オブジェクトに対して、まず「HorizontalAlignment」プロパティで水平方向の配置（横位置）を設定している（図9）。設定値はあらかじめ割り当てられた数値で、「中央揃え」にする場合は -4108 を設定する。しかし、この数値を直接指定しても分かりづらいため、値に付けた名前である「定数」を利用できる。ここでは、-4108 に付けられた「xlCenter」という定数を指定している。同様に、「左揃え」なら「xlLeft」（実際の値は -4131）、「右揃え」なら「xlRight」（同 -4152）を指定すればよい。

記録時に設定した配置の書式は「中央揃え」だけだが、それ以外の書式も自動的に記録されている。垂直方向の配置（縦位置）を表す「VerticalAlignment」、セル内の方向を表す「Orientation」などのプロパティだ（図10）。いずれも変更していないため、各プロパティにはいずれも初期値が設定されている。

最後に、数値が表示された B3～C3 セルを選択し、選択範囲を表す Range オブジェクトの「NumberFormatLocal」プロパティで、表示形式を設定している（図11）。セルの表示形式には、「数値」や「通貨」といった組み込みの書式もあるが、「セルの書式設定」画面の「表示形式」タブの「分類」欄で「ユーザー定義」を選ぶと、その書式を記号で表した文字列を確認できる。NumberFormatLocal プロパ

```
Sub 書式設定1()
    ' 書式設定1 Macro
    Range("B2:C2").Select
    Selection.Font.Bold = True
    With Selection
        .HorizontalAlignment = xlCenter
        .VerticalAlignment = xlCenter
        .WrapText = False
        .Orientation = 0
        .AddIndent = False
        .IndentLevel = 0
        .ShrinkToFit = False
        .ReadingOrder = xlContext
        .MergeCells = False
    End With
    Range("B3:C3").Select
    Selection.NumberFormatLocal = "¥#,##0_);[赤](¥#,##0)"
End Sub
```

図6 「マクロ」画面でマクロ「書式設定1」を選択して「編集」をクリックし、Visual Basic Editor (VBE) でそのSubプロシージャを確認してみよう。操作した手順数に比べて、記録されたコードの行数がやや多いことが分かる

```
Range("B2:C2").Select
Selection.Font.Bold = True
```

図7 B2～C2セルをSelectメソッドで選択。「Selection」で選択範囲を表すRangeオブジェクトを、その「Font」でフォントの設定を表すFontオブジェクトを取得する。その「Bold」プロパティにTrueを代入することで、選択範囲の文字列が太字になる

```
With Selection
End With
```

図8 「With」の後にオブジェクトを指定すると、対応する「End With」までの間、その対象オブジェクトを省略し、「.」から記述を始めることが可能。ここでは選択範囲を表すRangeオブジェクトを対象に、複数の書式を設定している

```
.HorizontalAlignment = xlCenter
```

図9 Rangeオブジェクトの「HorizontalAlignment」プロパティで、そのセルの水平方向の配置を設定する。設定値は数値だが、定数（数値に付けた名前）を利用可能。「xlCenter」の実際の値は「-4108」で、「中央揃え」を表す

プロパティ	設定	設定値
VerticalAlignment	縦位置	数値(定数)
WrapText	折り返して全体を表示する	True/False
Orientation	方向	数値(角度)
AddIndent	インデントの追加	True/False
IndentLevel	インデントのレベル	数値
ShrinkToFit	縮小して全体を表示する	True/False
ReadingOrder	文字の方向	数値(定数)
MergeCells	セルを結合する	True/False

図10 操作としては水平方向の配置（横位置）を設定しただけだが、記録機能では、表のようなそのほかの配置の書式もまとめてマクロ化される。ただし、横位置以外の設定値は全て初期値になっている